

第3次大阪府文化振興計画の策定に向けて(方向性案)

第2次大阪府文化振興計画	方向性(案)
<p>理念</p>	<p><方向性> 第2次計画の「4つの理念」は継承。ただし、第2次計画では、文化をとりまく状況の反転・打開をめざした、現況に対する一種のアンチテーゼとしての側面が強調されていた。第3次計画では、「4つの理念」を引き続き推進していくというスタンスに立った表現とする。</p>
<p>◇「社会を支える文化」 従来の文化行政は、芸術や文化を保護されるべきものとして主に補助の観点で行うイメージでした。これからは、文化への投資が都市の活性化による経済効果や教育・福祉効果など新たな価値を創造し、社会を支え、経済を牽引するという観点から、文化行政を進めます。</p>	<p><方向性> 第2次計画の内容・文言を継承することとする。</p>
<p>◇「都市全体に開かれた文化」 劇場や美術館の中だけが文化活動の場ではありません。大阪がめざすのは人々が街角を舞台にそれぞれの思いを表現している、そんな自由に開かれた都市です。御堂筋や水の回廊等、大阪の都市(まち)全体で活動・発表ができるよう「場」の提供を進めます。</p>	<p><方向性> 第2次計画の内容・文言を継承することとする。</p>
<p>◇「攻める文化」 今あるものや伝統を守るだけでなく、都市格を向上させる資源としての伝統文化のアピールや文化ベンチャーの斬新な取り組みなど、府民の創造的な挑戦を積極的に受け容れ、攻めの姿勢で新たな文化を育てます。</p>	<p><方向性> 「攻める」は、「ただ単に守られている」「停滞している」状況に対するアンチテーゼ。守るべき伝統はしっかりと守りながら、新たな展開を積極的に追い求めていくという第2次計画の本来の意味をより明確に示せるよう、表現を工夫することとする。</p> <p>【e x】「進化する文化」 今あるものや伝統を守るだけでなく、<u>それを礎にして新たな展開を進化させていくことが重要です。</u>都市格を向上させる資源としての伝統文化のアピールや文化ベンチャーの斬新な取り組みなど、府民の創造的な挑戦を積極的に受け容れ、攻めの姿勢で新たな文化を育てます。</p>
<p>◇「アーティストがめざす都市」 これまでは大阪で育ったアーティストが、東京や世界で活躍してきました。これからはアジアや全国からクリエイティブな人々(アーティスト、デザイナー、建築家、クリエイター等)がめざしてやって来るような大阪をめざします。</p>	<p><方向性> 大阪が、アーティスト自らの生活拠点として根づいていくまちをめざしていることをより明確に示せるよう、表現を工夫することとする。</p> <p>【e x】「アーティストがめざす都市」 アジアや全国からクリエイティブな人々(アーティスト、デザイナー、建築家、クリエイター等)が<u>住み、集い、活動したくなるような大阪をめざします。</u></p>

第3次大阪府文化振興計画の策定に向けて(方向性案)

	第2次大阪府文化振興計画	方向性(案)
行政の役割	<p>多彩な文化活動が、府民、NPO、企業やアーティスト、市町村等により、その担い手として、また支える立場で行われています。大阪の文化振興が総合的かつ効果的に進んでいくためには、それぞれがその役割を果たし、オール大阪で取り組む必要があります。</p> <p>大阪府は、民間の力を最大限に活かし、府民の自主性、創造性が発揮されるよう、広域的自治体として、次の役割を果たします。</p>	<p><方向性> 府市統合の動きを積極的にとらえることを明記することとする。</p> <p>【e x】 多彩な文化活動が、府民、NPO、企業やアーティスト、市町村等により、その担い手として、また支える立場で行われています。大阪の文化振興が総合的かつ効果的に進んでいくためには、それぞれがその役割を果たし、オール大阪で取り組む必要があります。</p> <p>大阪府は、民間の力を最大限に活かし、府民の自主性、創造性が発揮されるよう、<u>大阪市との事業の融合・統合・連携を一層推進しながら、広域的自治体として、次の役割を果たします。</u></p>
	<p>行政活動の基本領域</p> <p>行政は公益性が高いが収益性が低いため民間が取り組むことが難しい部分を担います。</p> <p>他は民間の自主的な活動に委ねるべきですが、行政は民間の自主的な活動について、自律性・経済効果がより高まるよう促します。</p>	<p><方向性> 第2次計画の内容・文言を継承することとする。</p>
	<p>文化行政の視点</p> <p>文化は行政が意図的に造り出せるものではありません。大阪府は主役である府民の創造性が発揮され自主的な文化活動が活発に行われるようサポートに努めます。</p> <p>また、育まれた多彩な文化を貴重な社会資源ととらえ、観光、まちづくり、教育、福祉などあらゆる施策に活用していきます。</p>	<p><方向性> 第2次計画の内容・文言を継承することとする。</p>
	<p>広域自治体としての府の役割</p> <p>大阪府は主に、広域的視点から行うべき都市文化政策や、文化の創造・活動基盤の整備、市町村や民間に対する情報提供やコーディネートでの役割を担います。</p>	<p><方向性> 府市統合の流れを文化施策のパワーアップにつなげていくことを明記することとする。</p> <p>【e x】 大阪府は主に、広域的視点から行うべき都市文化政策や、文化の創造・活動基盤の整備、市町村や民間に対する情報提供やコーディネートでの役割を担います。</p> <p><u>そのため、大阪市の事業との融合・統合・連携を図り、文化施策のさらなるパワーアップを目指していきます。</u></p>

第3次大阪府文化振興計画の策定に向けて(方向性案)

	第2次大阪府文化振興計画	方向性(案)
基本方向	<p>A「文化創造の基盤づくり」 多彩な文化の創造基盤、活動基盤をつくる。大阪の街が多彩な文化活動で満ちあふれ、彩られるよう、府民やアーティストがそれぞれの思いを表現、発表し、夢の実現や感動が生み出されるような環境・仕組みをつくります。</p>	<p>＜方向性＞ 第2次計画の内容・文言を継承することとする。</p>
	<p>B「都市魅力の向上」 多彩な文化を「都市」に活かす。大阪固有の素晴らしい文化資源や都市空間を、都市魅力・都市格の向上に十分活用し、世界から観光客が訪れるようなエンターテインメント性をもった都市づくりや経済活動の活性化につなげていきます。</p>	<p>＜方向性＞ 第2次計画の内容・文言を継承することとする。</p>
	<p>C「人と地域のエンパワーメント」 多彩な文化で「人」をつなぐ。誰もが文化に触れ親しみ参加する機会を提供することにより、人々の自主性・創造性を高め、夢や希望にあふれた子どもたちを育みます。また、多彩な文化活動は、地域における人と人とのつながりを再生し、誰もが自分らしさを輝かせ、お互いを尊重し合う豊かな人権文化の創造にもつながるものです。</p>	<p>＜方向性＞ 第2次計画の内容・文言を継承することとする。</p>

第3次大阪府文化振興計画の策定に向けて(方向性案)

	第2次大阪府文化振興計画	方向性(案)
取組方向①	<p>戦略①「大阪の街を使いこなす」</p> <p>●府民の思い、若者の自由な発想を活かし、まだ見ぬ才能がはばたく登竜門として、自由で開かれた競争の場と機会を提供することにより、大阪を「アジアから全国からアーティストがめざす都市」「チャレンジできる都市」としてブランディングすることが重要です。</p> <p>●そのため、大阪が誇る「水の回廊」「御堂筋」を最大限活用するとともに、府域全域をキャンバスに見立て、府民・アーティストにとって魅力的な、活動・発表の場として提供します。</p> <p>●また、世界中のアーティストのサクセスストーリーの頂点として、芸術文化にあこがれる子どもたちが夢見る先として、大阪に大規模ホールが必要、との認識のもと、官民の役割分担を明確にし、民間の力を引き出すなど、適切な立地誘導に努めます。</p>	<div style="border: 1px solid orange; padding: 10px;"> <p>«意見»</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創造的な活動や挑戦したい芸術家やアーティスト等を受け容れ、支援・育成し、文化が根づくまちにすること。 ・アートやデザインといった手法を都市づくりに積極的に活用することで、アーティストやデザイナー等の創造的な活動を行う人の活動の場を拡大させていくことも必要。 ・キャンバス推進事業での場の提供や、作家や作品を誘致できる環境整備の仕組みを充実させるとともに、プラットフォーム機能の強化の相乗効果をもたらされることが必要ではないか。 </div>

第3次大阪府文化振興計画の策定に向けて(方向性案)

	第2次大阪府文化振興計画	方向性(案)
取組方向②	<p>戦略②「府民の思いを都市づくりに活かす」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●都市の文化度を高めるためには、府民が直接、都市づくりに創造的に参画することが大切です。それによって、府民の都市への愛着・誇りが醸成され、人のつながりが育まれ、都市の新しい可能性が開かれます。 ●アーティストやデザイナー、建築家、クリエイターなど、クリエイティブな専門家の力を活用し、府民自身が思いや夢を都市づくりの中で実現させる仕組み(プラットフォーム)が必要です。 ●江之子島アートセンター構想の中で、官民協働のプラットフォームの具体化を図るとともに、規制緩和や部局間連携、市町村との連携などに取り組みます。 	<div style="border: 1px solid orange; padding: 10px;"> <p>《意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォーム事業（アーティストやデザイナー、建築家、NPO、企業、府民、行政などが集まり、協働し、アートやデザイン等を手法として、課題の検討）を推進すること。 ・大阪らしい新たな魅力を生み出すには、将来展望に夢がもてるよう、都心部に大学生が集まる仕掛けが必要では。 ・カンヴァス推進事業での場の提供や、作家や作品を誘致できる環境整備の仕組みを充実させるとともに、プラットフォーム機能の強化の相乗効果をもたらされることが必要ではないか。【再掲】 </div>

第3次大阪府文化振興計画の策定に向けて(方向性案)

	第2次大阪府文化振興計画	方向性(案)
取組方向 ③	<p>戦略③「府民の力が文化を育てる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●府民や企業が持つ文化に対する思いを掘り起こし、府民の力が文化を育てる仕組みづくりが必要です。このため、文化振興に寄附しやすい環境や制度づくりを進めます。 ●既に、清涼飲料水の自動販売機の売り上げの一部を文化振興基金へ寄附する「メセナ自動販売機」が府内に設置されていますが、今後更なる普及に努めます。 ●また、文化振興に関わる公益法人等への寄附金税制上での取組みなど、民間から民間への資金の流れを活発化させる方策を検討します。 ●さらに、モデル地域を設定し規制を緩和するなど、斬新で自由な発想が活かされ、新しい文化が生み出されるよう検討を進めます。 	<div style="border: 1px solid orange; padding: 10px;"> <p>《意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化への投資が都市活性化による経済効果、教育・福祉効果などの新たな価値を創造し、社会を支え、経済を牽引するのでは。 ・寄附者の意向を反映した事業実施のため、サクセスストーリーをつくることが重要。 ・文化を経済的側面・産業面から捉え、大阪オリジナルの文化が根づく仕組みづくりを検討されたい。 ・個人や企業が、文化振興に一層寄附しやすい環境づくりが必要ではないか。 </div>

第3次大阪府文化振興計画の策定に向けて(方向性案)

	第2次大阪府文化振興計画	方向性(案)
取組方向④	<p>戦略④「地域文化をもとに大阪の魅力向上」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生活文化・地域文化が生み出す文化力は、21世紀型の経済のベースともなる都市のパワーであり、“生活文化の匂いがするパワフルな大阪”“感性を刺激する大阪”に内外から人が集まってくると考えられます。 ●このため、場所性、界隈性を重視し、地域の歴史、地理的特徴、街並み、人々の営みなどに根ざした生活文化、地域文化を再認識することにより、府民のわがまちへの愛着・誇りが育まれることが大切です。 ●大阪のまち全体をミュージアムに見立て、大阪の魅力を発掘・再発見し、磨き・際立たせ、結びつけ、内外に発信する「大阪ミュージアム構想」の中で、市町村や民間企業・団体との連携のもと、大阪の魅力向上をさらに進めます。 	<p>《意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化や地域文化など、様々な文化資源を活かして、新たな価値・ブランドを創造し、それを発信して、都市格の向上や地域活性化、集客観光につなげること。 ・都市魅力を強くアピールするものは、とんがったものでも構わないので、分野別に分析して議論を進めることが必要。 ・大阪らしい新たな魅力を生み出すには、将来展望に夢がもてるよう、都心部に大学生が集まる仕掛けが必要では。【再掲】 ・地域活性化のためには、まちなみ保存の視点から、地域資源を発信し、集客に努めることも重要では。

第3次大阪府文化振興計画の策定に向けて(方向性案)

	第2次大阪府文化振興計画	方向性(案)
取組方向 ⑤	<p>戦略⑤「大阪固有の文化資源を活用、創造」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大阪発祥の文楽などの伝統文化は、都市格を向上させる世界的にも貴重な財産です。 大阪のアイデンティティを磨くためにも、守るのではなく、世界に攻めていくという志をもって、大阪、関西のすばらしい文化をアピールすることが重要です。 ●また、世界の主要な都市では、その街が誇りとする芸能に観光客が触れる機会があり、観光資源としても重要な役割を果たしています。 ●大阪、関西で生まれた貴重な文化資源を、府民が誇りに思えるよう、また、観光資源として活かされるよう、外に向かって発信するとともに、その伝統を踏まえたさらなる進化・発展が新たな価値・ブランドを創造し、未来につながっていくように努めます。 	<div style="border: 1px solid orange; padding: 10px;"> <p>《意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化や地域文化など、様々な文化資源を活かして、新たな価値・ブランドを創造し、それを発信して、都市格の向上や地域活性化、集客観光につなげること。【再掲】 ・文化の集積（ストック）とリノベーションが重要。 </div>

第3次大阪府文化振興計画の策定に向けて(方向性案)

	第2次大阪府文化振興計画	方向性(案)
取組方向⑥	<p>戦略⑥「エンターテインメントによる都市の活性化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●エンターテインメントは人を元気にし、都市を活性化させる力をもっています。 良質なコンテンツは、都市を一変させる観光資源ともなり、大きな経済効果を生み出します。 ●このため、エンターテインメントによる斬新で挑戦的な取組みや、民間が先導している付加価値の高いプロジェクトを戦略的にサポートし、都市の顔となる地域資源として活かし、大阪の街に、ひと、モノ、金を呼び込みます。 	<div style="border: 1px solid orange; padding: 10px;"> <p>《意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪に行ってみたいと思わせるもの、大阪でしか見れないコンテンツづくり、新たなエンターテインメントなどの観光資源により都市を活性化し、観光誘客につなげること。 ・文化から経済効果を生み出すには、観光産業とのコラボレーションなどで成功例を提示できるよう、目利きの選択と集中によるサポートが必要。 ・新しい文化観光コンテンツ、文化芸術産業の創出を目的としたエンターテインメントを促進してはどうか。 ・東京国際フォーラムのような地域の拠点となる世界標準の場は、税金だけでなく民間からの援助で建設することも可能。 ・大阪を愛するプロデューサーやコンテンツを広く募集してはどうか。 </div>

第3次大阪府文化振興計画の策定に向けて(方向性案)

	第2次大阪府文化振興計画	方向性(案)
取 組 み 方 向 ⑦	<p>戦略⑦「あらゆる施策に文化力を活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●社会のさまざまな課題を解決し、地域を発展させるためには、文化のもつ創造性や、人と人、人と社会をつなぐ力が、新たな原動力として重要な役割を果たすと考えられます。このため、文化の力を教育、福祉、雇用、まちづくりなどの施策に活かすことが求められます。 ●府内でも既にアート系NPOやアーティストたちが、地域に根ざしたまちづくりや社会的弱者である人々の自立支援に関わるなど、文化を通じて社会に関わる活動が広がりつつあります。府のあらゆる施策にこうした文化の力を活用するための仕組みづくりを進めます。 	<div style="border: 1px solid orange; padding: 10px;"> <p>«意見»</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府民が、地域で芸術を鑑賞し、積極的に参加したり、サポートにも関わることができるよう、アートと府民をつなぐ「つなぎ手」(コーディネートできる人材)の育成が重要。 ・教育行政との関係を議論する必要がある。 ・社会的弱者への文化的アクセス権の保障。 </div>

第3次大阪府文化振興計画の策定に向けて(方向性案)

	第2次大阪府文化振興計画	方向性(案)
取組方向⑧	<p>戦略⑧「未来を担う次世代の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●文化が子どもを育てます。ハッとするような一流のアーティスト、クリエイティブな人々との出会い、本物に触れた感動、魂を揺さぶる体験が、心の滋養となって、豊かな感性や創造性を育み、自己表現力やコミュニケーション力を高め、将来の夢や希望につながっていきます。 ●このため、子どもたちの発達・成長段階にあわせて、文化に親しみ、参加・表現する機会の充実を図ります。 ●特に、できるだけ幼少の時期から文化に親しみ参加する機会を持つことが重要であり、就学前の子どもたちについては、家族ぐるみ、地域ぐるみで取組みを進めることが効果的であるため、地域力再生に向けた取組みと連携しながら、親や地域を巻き込んだ「文化力豊かな地域づくり」を進めていきます。 	<div style="border: 1px solid orange; padding: 10px;"> <p>«意見»</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術の鑑賞機会や文化体験の機会を通じ、子どもに感動を与え、豊かな感性や創造力を育むこと。 ・府民が文化への関心を深め、自主的に文化活動を拡がるため、子どもの時から文化を知り、親しむ機会を提供できるような環境が重要。 ・発表の機会、発表の場を増やせば、より若い世代が参画できる機会が拡大し、次世代育成にもつながる。 </div>

第3次大阪府文化振興計画の策定に向けて(方向性案)

	第2次大阪府文化振興計画	方向性(案)
取組方向⑨		<div data-bbox="1537 428 2683 1079" style="border: 1px solid orange; padding: 10px;"> <p>「意見」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府民が文化に親しみ、理解を深められるような府民意識の醸成が必要ではないか。 ・文化が引き継がれていくには、新たな価値を生み出す創造力にあふれた人材の育成・集積を図ることが必要。 ・様々な文化に関する情報を発信するなど、府民が文化に触れる機会を充実させること。 ・市町村や民間の文化施設、大学などを活用し、文化活動を促進すること。 </div> <div data-bbox="1478 1136 2683 1289" style="border: 1px dashed blue; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>「方向性」</p> <p>戦略⑨として「文化振興への府民意識の醸成」を設けることとする。</p> </div>

第3次大阪府文化振興計画の策定に向けて(方向性案)

	第2次大阪府文化振興計画	方向性(案)
推進・評価体制 アーツカウンシルの構築	<p>戦略⑨「推進・評価体制」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●施策・事業を効果的に展開し、戦略①～⑧を戦略的に推進することが必要です。 ●全庁的な横断体制による十分な連携のもと、「PDCAサイクル」を十分に機能させ、適正な検証・評価による改善・見直しを行っていきます。 ●文化行政にふさわしい「PDCAサイクル」の構築や、府民のニーズやアーティスト等の専門性を反映することができる検証・評価体制の整備について検討します。 	<div data-bbox="1409 420 2671 787" style="border: 1px dashed gray; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p><方向性> アーツカウンシルの構築</p> <p>文化の主役は府民、行政はサポート役の基本理念に基づき、専門家が評価、企画、提案を行うことにより、大阪にふさわしい文化行政の展開を図るひとつの仕組みとして、アーツカウンシルを計画に位置づけることとする。</p> <p>また、検証・評価の対象となる事業は、アーツカウンシルのみで担うものではないことを示せるよう、表現を工夫する。</p> </div> <div data-bbox="1409 808 2671 1134" style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【ex】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○府民のニーズやアーティスト等の専門性を反映した、文化行政にふさわしい「PDCAサイクル」を推進していきます。 ○とりわけ、アーツカウンシルにおいては、広く、深い知見を有した専門家が評価、企画、調査等を行うことにより、本計画の理念や目的を効果的、かつ、きめ細かく事業展開に反映していきます。 </div>

第3次大阪府文化振興計画の策定に向けて(方向性案)

	第2次大阪府文化振興計画	方向性(案)
評価指標	<p>指標 この計画では、9の戦略を進めることにより、中長期(5～10年間)を展望した将来の姿として「文化自由都市、大阪」の実現をめざしています。本計画期間である平成24年度に向け、「文化自由都市、大阪」が実現された姿を示すものとして、指標を設定しました。</p> <p>今後、指標の数値目標について達成度等を把握・点検し、府民への公表や大阪府文化振興会議からの意見聴取を行い、施策の改善、見直しにつなげていきます。</p> <p>〔総合指標〕 「文化自由都市、大阪になっていると思う府民の割合」</p> <p>〔個別指標〕 「大阪が創造性を発揮し、チャレンジすることができる魅力的な都市になっていると思う」 「大阪の都市全体が活動・発表の場となっていると思う府民の割合」 「将来の夢や目標をもっている子どもの割合」 「大阪が文化的に愛着・誇りを持てる都市であると感じている府民の割合」 「自分が住んでいる地域に愛着を感じている府民の割合」 「大阪が楽しいまちだと思っている人の割合」</p>	<p>＜方向性＞ イメージや感想などを聞く指標のみでなく、実態や経験などに関する具体的な指標についても検討していくための文言を盛り込むこととする。 府民の経済活動や次世代育成など、より積極的な活動を支援するため、定量的・定性的な指標による評価に加えて、波及効果など複数の評価軸を設定して、文化振興の成果を評価するための文言を盛り込むこととする。</p> <p>【e x】 ○この計画に盛り込まれた個々の戦略が、どのような効果を上げているのかについて、府民の経験や実態に即した指標をもとに、検証・評価していきます。そして、府民への公表や大阪府文化振興会議からの意見聴取を行い、施策の改善、見直しにつなげていきます。</p> <p>評価指標(例)</p> <p>＜都市魅力の向上や、場の提供、文化への愛着＞ 「公共空間など、作品の展示場所が十分に提供されている」(33.0%) 「自主的な芸術文化活動のための場の提供が充実している」(23.3%) 「身近な地域に、大阪らしい文化や伝統が根づいている」(41.1%)</p> <p>＜文化を支えるボランティア活動などへの参加＞ 「ボランティア活動など、文化に関する集団活動に参加したことがある」(26.9%) 「自ら芸術的な活動したり、美術や工芸などの創作活動を行っている」(29.4%) 「大阪で、絵画やアート作品など芸術鑑賞をしたことがある」(41.4%)</p> <p>＜次世代による文化芸術施設の利用などの経験＞ 「お子さんが、美術館、音楽ホール、映画館など文化施設を利用したことがある」(75.6%) 「小中高生が地域の美術館やコンサートホールを利用しやすい工夫されている」(34.0%) 「小中高生が文化活動を発表できる場が十分に提供されている。」(32.9%)</p>